

# ほっかい新報

2012年 週刊 月3回発行  
(第1・2・3日曜日)

10月21日(第1888号)

発行所 ほっかい新報社

060-0806 札幌市北区北6条西7丁目  
電話 011(726)4858  
北洋銀行(普)0576770  
Eメール:hokkaisinpoo@gmail.com

定 価 月ぎめ 230円 1部80円(〒120円)  
年ぎめ 2,760円(〒1,440円)

東日本大震災から1年7か月がすぎました。10月13日、札幌市内で、原発なくそう！と2つの取り組み——「さようなら原発北海道1万人集会」と、公開シンポ「原発も核兵器もない世界を」が開催されました。



右よりコーディネーターの殿平義彦、坂本、藤井、長田、佐藤の各氏

## 道宗平協「原発も核兵器もない世界を」

日本基督教団札幌北光教会で、北海道宗教者平和協議会が主催する公開シンポジウム「原発も核兵器もない世界を」が開かれました。シンポジウムでは、東日本大震災を契機にフリージャーナリストになり、原発20キロ圏内の現状取材、発表している坂本工氏、日本基督教団の牧師として、

## 宗教者は原発ゼロの社会を願う

12年10・13

の日系2世。ブラジル、チリで革命運動に従事、「Rio+20市民NGOフォーラム」で提言世界に向けて福島現状を伝える佐藤清浄氏の4氏が報告しました。坂本、藤井両氏の報告を紹介します。

### 300年守ってきた田畑が

坂本氏は、映像を使って、牛舎の中にながれたままの牛、そのままの状態に餓死した牛、片付けられて空っぽになった

で死んでいくのかと絶望している人たちが

### 福島原発事故は

収束していない

藤井氏は「昨年、野田首相の福島原発事故の収束宣言以後、過去の問題のように取り扱われてきた。事故の収束は、避難している人たちが福島に戻って生活ができるようになった時に収束したといえる。」

問人体に影響を及ぼし続ける。福島の現実には、チェルノブイリ原発事故後に、ウクライナが定めた強制退去地域の放射線量の基準値は年間5ミリ、それに対して、福島市が年間20ミリ、郡山市は11ミリ、文科省は福島県内の幼稚園、保育園と小中学校の空間線量を年間20ミリまで問題なしとした。

「チェルノブイリの祈り…未来の物語」の作者アレクシエービッチ氏は、「ここでは過去の経験はまったく役に立たない。チェルノブイリ後、私たちが住んでいるのは別の世界です。前の世界はなくなりまし」と言

13日札幌大通公園西8丁目「さようなら原発北海道1万人集会」には、道内各地から1万2千人を超える参加者が札幌8丁目広場を埋めつくし、泊原発を再稼働させない、大間原発建設再開に抗議、幌延を最終処分場にはさせないと、強い意志が示された▼同日同時間に1丁目テレビ塔の

チェルノブイリ事故から20年後の時点で、ロシア、ウクライナ、ベラルーシの健康被害者は700万人を越えた。福島事故20年後には100万を想起せざるを得ない。

「クリスト教者に何ができるか」、福島の子どもの怒り、ともに悲しみ、寄り添うことができる。それができればそこから力強いものが生まれると信じて行動していきたい」と語りました。

向かいの北光教会では、宗教者平和協議会の公開シンポジウム「原発も核兵器もない世界を」が開かれた。福島原発事故から1年7か月、収束どころか、被害は拡大している実態が生々しく報告された▼このシンポで原発事故の被害の大きさの前に見落とされがちな問題、原発の作業に係わっている労働者の健康被害の問題に気がつかされた▼それも原発で働らく時も、事故後もおびただしい数の作業員が動員され、高い放射線量の中でいのちを削って働いているという。作業員の4%がすでに死亡している▼死因は心筋梗塞が多い、遺族に高額な口止め料が支払われているとの情報もあるという。今後も続く事故処理に何人の作業員が犠牲になるのか▼藤井氏と長田両氏が使



## 1万2000人

## 「さようなら原発」道集會に

10・13

主催者を代表して小野有五・北大名誉教授、雨宮処凛・作家、倉本聰・脚本家、西尾正道・国立道がんセンター院長の4氏があいさつ。西尾氏は、チェルノブイリ原発事故のその後の健康障害について紹介し、医師の立場から「原発ゼロ」を呼びかけ、脚本家の倉本聰さんは、「今度の総選挙で各候補者は原発への態度を明確にしめして争うべきだ」と政治の責任を鋭く指摘しました。雨宮さんはトーク形式で「私が原発をなくす取り組みに関わったのは昨

年3月11日以降、私の生まれ育った地元北海道が同じようになつたらどの思いから」と語り、声をあげつつける大切さを呼びかけました。道内3つの地域から報告があり、「原発問題後志住民の会」の岩内町在住・大石美雪さんが「泊再稼働をさせないために全道のみなさんと連帯を強めたい」と決意表明。大間原発訴訟の会の中森司副会長は、函館市などで広がりを見せている大間原発反対の声を紹介し、海洋の汚染の危険性にふれました。核廃棄物施設誘致に反対する道北連絡協議会の3人は、幌延を最終処分場地にはさ

せないといさつして、大きな拍手を受けました。集会には上田文雄・札幌市長が来賓としてかけつけ、市民も経済界も協力して原発から自然エネルギーに切り替えていくことのべました。デモ・パレードでは、2コースに分かれ参加者が、うちわや太鼓を打ち鳴らしてのパフォーマンスで「原発なくそう」をアピール。道行く高校生などからは、手を挙げて大きな声援が送られていました。

「70年代の生活は今の電力消費量の5分の2、夜間テレビ、コンビニ、自動販売機は本当に必要なのか、テレビのスイッチ押しエネルギーを使わず、筋トレに高いお金を出してジムに通っているのはおかしい」に、

日常生活を見直し、日本にたくさんあるエネルギーをうまく活用すれば、原発がなくてもやっいていけるということが実感でき、参加して良かったと思った。また倉本さんは、選挙では「原発ゼロ」の立場をはっきりすべきだとも語っていて、共感でき、とても励まされた。(原島宣子、59歳元看護師札幌東区在住)

大通西8丁目広場で開催された「さようなら原発北海道1万人集会」には、小雨が降る中、遠く函館市、矢野別などからバスを連れて参加するなど、全道から1万2000人の参加者が会場を埋め尽くしました。

を呼びかけ、脚本家の倉本聰さんは、「今度の総選挙で各候補者は原発への態度を明確にしめして争うべきだ」と政治の責任を鋭く指摘しました。雨宮さんはトーク形式で「私が原発をなくす取り組みに関わったのは昨

年3月11日以降、私の生まれ育った地元北海道が同じようになつたらどの思いから」と語り、声をあげつつける大切さを呼びかけました。道内3つの地域から報告があり、「原発問題後志住民の会」の岩内町在住・大石美雪さんが「泊再稼働をさせないために全道のみなさんと連帯を強めたい」と決意表明。大間原発訴訟の会の中森司副会長は、函館市などで広がりを見せている大間原発反対の声を紹介し、海洋の汚染の危険性にふれました。核廃棄物施設誘致に反対する道北連絡協議会の3人は、幌延を最終処分場地にはさ



金曜行動に参加

「70年代の生活は今の電力消費量の5分の2、夜間テレビ、コンビニ、自動販売機は本当に必要なのか、テレビのスイッチ押しエネルギーを使わず、筋トレに高いお金を出してジムに通っているのはおかしい」に、

日常生活を見直し、日本にたくさんあるエネルギーをうまく活用すれば、原発がなくてもやっいていけるということが実感でき、参加して良かったと思った。また倉本さんは、選挙では「原発ゼロ」の立場をはっきりすべきだとも語っていて、共感でき、とても励まされた。(原島宣子、59歳元看護師札幌東区在住)

赤旗へ日曜版▼定価800円(〒24)一部200円日本共産党中央委員会発行